

CEF2019 黛クラス 課題曲(ジャズ:黛 健司)

1. ウィントン・マルサリス・クアルテット+ダイアン・リーブス(vo)

『ザ・マジック・アワー』

ブルーノート

1 曲目:フィーリング・オブ・ジャズ

◎チェックポイント

- ・冒頭、ベースの音程、音色、質感の表現が適切か。
- ・絶妙なブーミング感が表現できているか。
- ・ベースの音で内装などがピリついたりしないか。
- ・ドラムスのリムショットの質感表現が適切か。
(木のスティックをリムを叩いているように聞こえるか)
- ・シンバルの厚みが表現できているか。
- ・ピアノが軽やかに、なおかつ存在感を十分に主張して唄うか。
- ・ヴォーカルのリーブスの声が、黒人女性特有の、ちょっと粘り気を感じさせる感じで鳴るか。
- ・声がしっとりとして、肉声感が感じられるか。
- ・喉の震えが目に見えるようか。
- ・トランペットのミュート音が適切に表現されるか。
- ・ミュート音のフワッと膨らむ感じが味わえるか。

2. 角田健一ビッグバンド

『ビッグ バンド サウンド』

ワーナー:WPCL-10853

3 曲目:オール・オブ・ミー

◎チェックポイント

- ・ピアノの中高音が軽やかに響くか。
- ・ピアノの低音域に十分なノビ、重量感が感じられるか。
- ・ヴィブラフォンの響きが適切に表現されるか。
- ・ベースの音程、音色、質感が正しく表現されるか。
- ・ギターのリズムが明確に刻まれるか。
- ・管楽器の炸裂感が充分表現されているか。
- ・管楽器のしなやかな表情が表現されているか。
- ・ビッグバンドならではのアンサンブルの妙が味わえるか。
- ・リズムの揺らぎが表現できているか。

3. マイアベーア

歌劇「ユグノー教徒」より「ピフ・パフ」

ステレオサウンド: SSPH-3001

2 曲目: ピフ・パフ

◎チェックポイント

- ・バス歌手の胸の厚み、身体の立体感、骨格のしっかりした感じが表現できているか。
- ・張り上げた声が力感に満ち、エネルギーを十分感じさせるか。
- ・歌手が立つステージの空間がイメージできるか。
- ・ステージの床に反射しながら消えてゆく声の余韻が聴き取れるか。
- ・低弦のうなり、エネルギー感が再現できているか。
- ・大太鼓のスケール感、低域の伸びが表現できているか。
- ・コーラスに混濁感が混じることはないか。

4. チャイコフスキー

『ヴァイオリン協奏曲』

アンネ=ゾフィー・ムター(ヴァイオリン)

アンドレ・プレヴィン(指揮)

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

ユニバーサル: 474 8742

第1 楽章冒頭数分

◎チェックポイント

- ・弦楽器のたなびくような爽やかな響きが再現されるか。
- ・演奏会場のアンビエンスが十分に感じとれるか。
- ・演奏空間の拡がりを感じとれるか。
- ・弦楽器が刺々しくならないか。
- ・独奏ヴァイオリンの音色、質感が正しく再現されるか。
- ・しなやかな弦楽器ならではの表情が再現されるか。
- ・ムターの妖艶極まりない演奏の色気が聴き取れるか
- ・ヴァイオリンの細部のニュアンス表現が充分聴き取れるか。
- ・トゥッティで刺々しい響きにならないか。
- ・オーケストラの楽器群と独奏ヴァイオリンの音像の対比は適切か。
- ・独奏ヴァイオリンの咽び泣くような表情が十分に表現されているか。

5. Stereo Sound Hi-Res Reference Check Disc より

アイルランド民謡

『ダウン・バイ・ザ・サリー・ガーデンズ』

サククス: 苦米地義久

ピアノ:石塚まみ

パーカッション:石川智

ステレオサウンド:SSRR9~10

◎チェックポイント

(PCM192kHz/24bit 対応の装置のみで試聴)

- ・録音制作において、音の編集作業をいっさいおこなわないダイレクト2ch録音のハイレゾ・チエックディスク。
- ・収録に使用したマイクロフォンには、100kHzまでの周波数特性を持つ『サンケン CO-100K』を採用。ハイレゾの真の実力を発揮した録音。
- ・再生される空間の広さが適切に表現されているか。
- ・左右の拡がりや奥行きの深さだけでなく、空間の高さまで知覚できる再生か。
- ・パーカッション、ピアノ、サックス、それぞれの楽器がどこまでリアルに再現されるか。
- ・各楽器の音の自然さが的確に表現できるか。
- ・演奏空間の「静けさ」がどこまで再現できるか。
- ・各楽器のローレベルの再生能力がどこまで確保されているか。